

世代を超えた連携と 「多門院地区歴史探訪」への取組

多門院の将来を考える会
多門院長生会
じゃきりいわの会多門院支部
会長 新谷 一幸

老人会活動には、当初私は消極的でした。60歳で入会した時は、同級生に笑われました。「年寄りの集まりの会に入って何するの?」と皆いいます。

一般的には、その程度の理解が普通で、入ると早く老けてしまうとの認識が強く、ご多分に漏れず我が「老人会」でもその雰囲気は漂っていました。「本当にこのまま私も老けてしまうのか」当時は心配になりました。

現実には「老人会」活動は、70歳代になってからという空気がありました。

ただ救いは、私たちの地域では、60歳になると半強制的に「老人会（多門院長生会）」への加入を強いられ、その為団塊の世代の人達が多く入っていたことです。その為「会」では、何と無く「このままでは・・・」という空気も少なからず漂い始めていました。

そんな時、我が地域の老人会である「多門院長生会」の会長に選ばれてしまったのです。平成26年2月の事です。

それまで、平成9年度から多門院地区の将来に対する問題提起をする会として立ち上げた「多門院の将来を考える会」の会長をしており、何とか多門院地区の活性化につながる取り組みが出来ないかと考えていましたので、この会と老人会を、そして「子供会」をも巻き込む活動が出来ないか。子供と年寄りをつなげる「接着剤」の役割は、出来るのではないかと思います。

私の前老人会会長の時、この地域に昔からあり、団塊の世代の私達にも経験と思い出がある「稲の虫送り」行事の60年ぶり（平成25年度時点で）に復活させようと「多門院長生会」が中心と成り、大松明作りや子供用青竹の松明作りを行っていました。その後引き継いで現在も地元消防団や子供会と合同で7月上旬に行っており、地元行事として定着しつつあります。

毎年子供達も多数参加してくれており、子供の頃の「古里の思い出」として、大声で叫びながら野道を歩いた情景を思い出してくれれば大成功です。

今年も豊作を祈って「い〜ねのむ〜し おお〜くろや。ひょう〜た〜んたたいて お〜きの島まで おお〜くろや!!」と。



写真1 復活した「稲の虫送り」



写真2 多門院歴史探訪ウォーク (平成29年)



写真3 多門院歴史探訪勉強会 (平成29年)



写真4 区所有古文書調査風景 (多門院公民館)

昭和55年、大阪から多門院にUターンした時から、少しずつ調べたり、古老から聞いたりして書き溜めていた地域の歴史や文化財、遺跡や伝説などの散文や雑文。

将来的には、一つの形あるものにしたいと思っていますが、10年ほど前から色々な団体から「多門院地区を案内してほしい」との依頼が度々来るようになりました。

案内活動をするによっていろいろな団体や人達と知り合いになり、いろいろ教えられたりで、もっと地域の事を調べようと夢中になりました。こんなにいろいろな宝物があったなんて。ぜひ地元の人達や子供たちに教えてあげなければと思いました。前々から考えていた「多門院歴史探訪」。手始めに孫が小学5年生になった時の夏休みの自由研究で「多門院ウォッチング」として2日間かけて、多門院中の史跡旧跡、社寺や伝説の場所等を孫と一緒に徒歩で巡り、地図の上にその時撮った写真やコメントを記入し発表してくれました。学校での評価は、花丸で多門院ってすごいんだねとの先生のコメントを頂いたと喜んでいました。

私の評価には、また別の思いがありました。本当に「多門院」はすごい所だ。この宝をこのままにしておけば、「このままのまま」に成ってしまう。

なんとか地域の人達とこの宝を共有したいと思いました。その後も孫は、地域の狛犬を調べたり、地藏堂の「延命地藏尊半跏像(市指定文化財)」や「無縁塔」、自然石での舞鶴市最古といわれる板碑などを現地調査などの記録を基に自由研究としてまとめていました。

子供達も現地で現物を見て地域の文化財や成り立ちを知れば、興味を持ってくれると確信しました。いつかはこれらの文化財や旧跡、伝説の地を訪れてその謂れを知れば、郷土愛も深まるはずだ、と。

やっと平成29年夏「第1回多門院歴史探訪ウォーキング」を、そして「第2回多門院歴史探訪ウォーク」を平成29年11月23日に京都府立大学歴史学科及び舞鶴地方史研究会と合同で行ない、地区外の参加者もあり成功裏に終わり、今後につながる活動であったと思っています。



写真5 梯木林での植樹祭風景（子供会合同）

また4年ほど前から、多門院地区の「氏神」である「山口神社の祭礼」調査で来られていた府立大の東昇准教授と知り合いになり、多門院区所有古文書約250点余りの調査をお願いし、数回多門院公民館などで調査をし、平成29年11月23日午後よりその成果を地元へ報告され、その内容は、江戸末期から明治初期の多門院の置かれた状況や生活状況など非常に興味深いものでした。今後は、ウォーキングでもこの「報告」の内容も含めて子供たちに伝えていければ良いと思います。

地区内で中心的な場所にある「梯木林」という名の小高い丘。現在は、ゲートボール場や中山間制度の活動拠点となる倉庫、中段部は、現グランドゴルフ場に利用しているが、風水害及び地震時の早期避難場所として整備中のこの丘は、丹後風土記残欠に記載の「倉部山」であり、「高床式の祠があり、梯子を使って昇り降りしていた・・・」天蔵社のあった場所です。

その場所で、7年前（平成24年）から「桜や紅葉の植樹」を進めています。もちろん「子供会」を巻き込んでの行事です。

年3～4回の除草を行ったり、11月下旬に雑木処理及び穴掘りは、老人会の役目。

12月上旬に子供会合同の「植樹祭」を行い、将来多門院地区の桜や紅葉の名所となり、かつ避難場所として整備されるよう頑張っています。

そして、自分達が植えた「桜や紅葉」が大きくなって、素晴らしい花を咲かせる公園となっているのを見た時、子供たちは何を思うのでしょうか。自分たちも将来は、多門院に帰ってきて、素晴らしい「地域づくり」をしてくれるのでしょうか。郷土愛を持ってくれるのでしょうか。いろいろな感情が入り混じり、複雑な気持ちでこの丘「梯木林」を眺めています。歴史豊かなこの丘や多門院が将来どうなっていくのかは誰にも分かりませんが、しかしこれらの「取組」が、多門院のこれからの歴史に「無駄」とはならないように何か痕跡を残せたらいいと思う。

これらの活動が、子供たちの心に何かしら残ってくれればと期待したい。

*注記

これら長年の取組が評価され「多門院長生会」は、平成29年度「舞鶴ユネスコ協会・文化賞」、「舞鶴市老人クラブ連合会・優良クラブ賞」、「京都府老人クラブ連合会・優良クラブ賞」そして「全国老人クラブ連合会・活動賞」と立て続けに年間4度表彰を受けました。

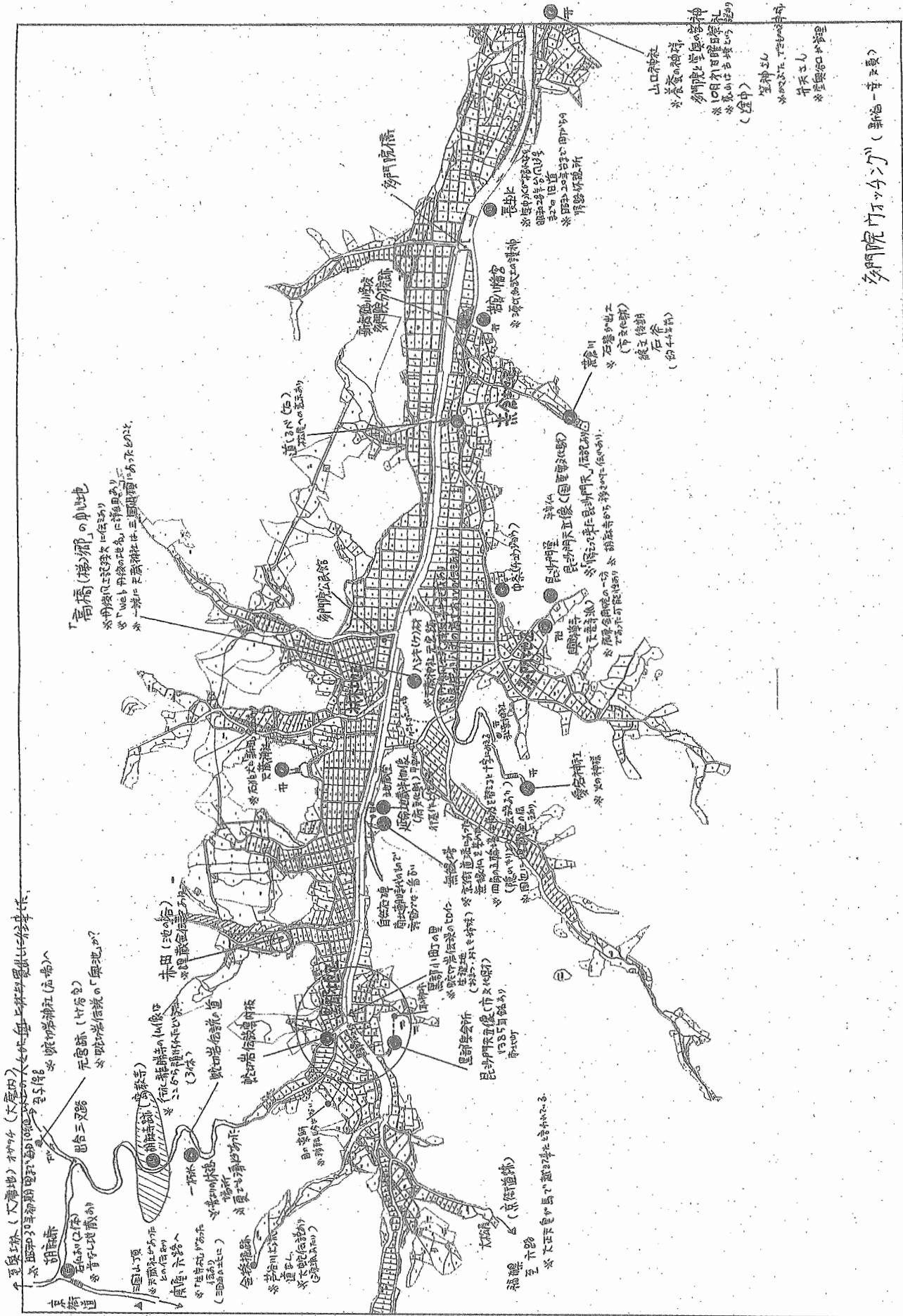


図 多門院ウォッチング地図 (新治一幸作)

表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 丹後風土記残欠倉部山 = 高梯郷の中心地
(舞鶴市多門院字梯木林) 新谷一幸氏撮影
- 2 大宮売神社旧本殿の調査風景 近藤史昭氏撮影
- 3 稲の虫送り (舞鶴市多門院) 新谷一幸氏撮影
- 4 舞鶴湾口から青葉山など東地域の山 松岡秀雄氏撮影
- 5 京丹後市大宮売神社の境内 菱田哲郎氏撮影

京都府立大学文化遺産叢書 (2008 ~)

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報
—御用日記・諸願控の総合的研究—
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽地域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山城の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 八幡・南山城地域の寺院資料と信仰—京都府歴史資料調査—
- 11 舞鶴の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 13 古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究



京都府立大学文化遺産叢書 第14集 舞鶴・京丹後地域の文化遺産

編集 東 昇・菱田 哲郎
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5
発行日 2018年3月30日
印刷 サンケイデザイン株式会社
〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 14 番地 2